

9月Qプレビュー：トップラインの伸びが計画上振れをドライブ

主なポイント

- ・会社は23日15時30分に4～9月期（中間）決算を発表予定
- ・当サイトは中間期OPが28億円と、会社計画25億円をややビートしたと予想する
- ・2Qのドル円平均は159.3円、会社想定での着地
- ・競合の7・8月の月次売上は4～6月比で9.4%増加しており、AI関連需要の拡大は続いている
- ・原材料費の市況価格はまちまちで、下期の材料費減による上振れは2億円程にとどまろう
- ・通期OP予想は65億円から63億円へ小幅に減額するが、会社計画53億円をなお9億円上回る
- ・通期計画が上方修正される可能性にも留意すべきだろう

	今期			来期		
	コンセンサ	独自	カリ(%)	コンセンサ	独自	カリ(%)
営業益	5,826	6,300	+8.1%	6,900	8,500	+23.2%

Event

Event Preview | 4～9月期 決算

サプライズ <↑> 上振れの可能性

通期計画 <↑> 上方修正の可能性

中間期は会社計画をビートしよう

当サイトは中間期の業績を売上高440億円（会社計画430億円）、OP28億円（25億円）と予想する。2Q単独では売上高231億円（221億円）、OP19億円（16億円）となる。

2Qのドル円平均は159.30円で、会社計画の159円並みだった。9月第2週に一時153円台まで為替円高が進んだものの、月末には157円台へと急落。ユーロ円は183.33円と計画の185円を小幅に下回ったが、影響は軽微だろう。

材料費は2Q時点で計画並みでの着地と推察。当サイトは当社の原価は市況に対して1四半期程度遅行するとみているが、7月の修正計画は1Qの原価水準を前提に策定されている。1Qは銀がQoQ▲10.4%、ルテニウムが同+9.5%であり、両者が相殺し、おおむねインラインの公算。

会社計画に対する上振れはトップラインに発現するとみる。國巨（TW、コード2327）の7・8月平均の月次売上は、4～6月平均比で9.4%増加した。KOAも1QのBBレシオが1.18と受注残174億円であることを考慮すると、2Qも受注超過の基調が続いていよう。

1Qの為替を除く増収13.7億円に対し、限界利益は8.2億円増加した。2Qは増産費用などが先行し、限界利益率は低下しただろう。

AI関連需要の拡大は続く

1Qの用途別売上（YoY）は、産機+38.1%、通信+77.0%、電源+57.9%といずれも高い伸びを示した。AIサーバー向けの大電流シャントなど、高付加価値品の需要拡大が業績をドライブしている。構成比46%の自動車向けはQoQ▲2.5%と一服しているが、成長用途の伸びを打ち消すには至らないとみる。

当サイトは下期の売上高を460億円（会社計画443億円）、通期を900億円（873億円）と予想する。会社計画は2Qから4Qまで売上高を横ばいとしており、受注実勢との乖離は引き続き大きいと考えている。

材料費による上振れは2億円弱にとどまろう

8月のIDEAでは、貴金属市況の調整を下期の上振れ要因としていたが、足元の相場を1～3月比で見ると、銀はQoQ▲22.2%と下落した一方、ルテニウムは同+13.2%と上昇した。10月初めには8,680円/gの高値を付けている。

当サイトは会社計画に対する下期の材料費は▲1.5億円ほどにとどまると予想する。

北米代理店で値上げ前の先行発注が発生した経緯から、今回の価格は正相場に連動しない一回限りの改定であったと推察する。相場下落に伴う値下げ圧力は限定的であろう。



— 現在株価

12ヶ月目標株価

未設定

現在株価

2,412

25日平均出来高

41万株

25日平均売買代金

9億円

信用残高

+1.45日

KOA（プライム、コード6999）

電子部品 | 日本

電子部品メーカーとして、電子機器の回路部品である抵抗器を主力に、IC、複合部品などの製造販売を手掛ける。世界各地に拠点を設け、アジアを中心とする海外向けが売上高の4分の3を占める。抵抗器を、自動車向けを中心に産業機器、家電製品、通信、電源などの分野に提供。固定式抵抗器でトップシェアを誇る。ネガパターンを形成したスクリーンを用いてペーストを印刷するスクリーン印刷成膜などの加工、微細構造といった設計、材料配合・合成、パッケージ設計のような実装、測定・分析・評価ほか様々な技術を基盤に発展。成長市場の自動車に向けた高耐圧、高電力対応製品や、AI関連機器向けの大電流シャント、小型高精度製品などに注力している。1940年、興亜工業社を創業、固定抵抗器の製造を開始。47年、株式会社に改組。73年、マレーシアに子会社を設立して以降、米国、シンガポール、台湾、中国、ドイツなどへ生産・販売・研究開発を含め拠点を増やす。86年、社名をコアに変更。2015年、現社名に改称。（QUICK企業価値研究所）2025/11/18

通期OPを63億円へ小幅に減額

通期OP予想を65億円から63億円へ減額する。会社計画53億円に対する上振れの内訳（億円）は、売上＋9.4、材料費＋1.5、為替▲1.5。

売上は会社計画を27億円上回る900億円を据え置く。下期のユーロ安を織り込み為替前提をアップデートした。従来予想では固定費を会社計画比で2億円少なく見積もっていたがこれも撤回する。

純利益は83億円（従来85億円）、EPSは225円（同229円）へ小幅に減額する。配当は中間31円50銭・年63円配の予想を据え置く。

上方修正の可能性をどう見るか

会社側は25年10月、26年1月、26年7月と3四半期連続で通期計画を上方修正している。中間期でもトップラインの上振れを確認できれば、通期計画が引き上げられる確度は高いとみる。

アップサイド・ダウンサイド

アップサイド

- AI関連需要が加速し、2Q以降のQoQ売上が一桁台後半ペースで増加する場合。
- 原価構成比が銀に片寄る場合。
- 中間決算時の上方修正。

ダウンサイド

- AI関連の一巡や先行発注の反動により、下期の売上が200億円/Qにとどまる場合。
- ルテニウムが一段高となり、当サイトが予想するほど材料費の押し下げが発現しない場合。
- 為替円高が再燃した場合。
- 構成比46%を占める自動車向けの一服が長期化する場合。

関連レポート

- UPDATE——最近の円安進行に対する見解（2026年9月）
- IDEA——来期にかけて市場期待を大幅に上回る業績推移へ（2026年7月）

業績ハイライト

四半期業績（累計）

	今期Q1 (実)	今期中間 (予)			今期Q3 (予)		
		日経	コンセンサス	独自	会社	コンセンサス	独自
売上高	20,880	43,000	43,750	44,000	-	66,750	67,500
営業利益	851	2,540	2,700	2,840	-	4,250	4,700
営業利益率	4.1%	5.9%	6.2%	6.5%	-	6.4%	7.0%
純利益	1,629	5,250	-	-	-	-	-
EPS	43.88	141.31	-	-	-	-	-
配当	-	-	-	31.50	-	-	-

通期業績

	前期 (実)	今期通期 (予)			来期 (予)	
		会社	コンセンサス	独自	コンセンサス	独自
売上高	72,287	87,300	89,740	90,000	94,600	100,000
営業利益	3,646	5,360	5,826	6,300	6,900	8,500
営業利益率	5.0%	6.1%	6.5%	7.0%	7.3%	8.5%
純利益	3,951	7,740	8,226	8,360	4,600	6,000
EPS	106.41	208.42	221.39	225.12	123.81	161.00
配当	32.00	63.00	63.00	63.00	-	63.00